

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成）
タイプB 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代 表 校 名 (連携大学 名)	香川大学
事 業 名	リアルワールドデータを用いた研究の加速を目指した研究基盤構築
事 業 責 任 者	香川大学医学部附属病院長 門脇 則光
事 業 の 概 要	
香川大学医学部附属病院（以下、香川大学病院）の臨床研究支援センター にリアルワールドデータ (RWD) 研究支援部門（活用・研究管理・統計支援の3つのチームから成る）を設置し、若手医師の研究能力、研究データマネジメント能力を向上させる。 主に対象とする診療領域として実績のある循環器内科・腎臓内科・耳鼻咽喉科・整形外科を対象に、RWD 研究の加速を図る。 研究支援者として、大学院生・医学生を RA・SA として雇用し、RWD 研究支援部門に所属し、若手医師が行う研究への参画を図る。その知識・経験を元にして RA・SA がやがて質の高い自身の研究を行えるようになり、研究能力の底上げにつなげる。これらの取り組みを通して将来も、医師の研究時間を維持した状態で、研究業績の質と量を向上させる好循環を目指す。これらを香川大学病院の特色と位置づけ、産業界にも RWD 研究に基づく優れた情報提供ができるよう推進する。	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
○これまでの MID-NET を用いた RWD 研究による DDC の実践の実績、4つの科における研究がすでに実施されている臨床研究を基盤に国際レベルの臨床研究の推進が期待できる。また、RWD 研究支援部門を新設し、教育研究支援者を雇用することは働き方改革として評価できる。 ○On job training 教育が期待できる。 ○既に全学共通教育でデータサイエンスの基礎教育を行っている。 ○教育研究時間の調査のフィードバックによる検証は優れている。 ○好事例を共有する指導法を学ぶ仕組みは診療参加型臨床実習を継続させることに期待がもてる。 ○命の尊厳に対する謙虚な医師の態度の達成目標は優れている。 ○研究受託のパッケージサービス化のモデルには期待できる。 ○定期的なメンタルチェックやカウンセリングサービスの提供の環境は優れている。 ○事業開始に向けた準備が進行しており、RWD 生成の標準化や高度化が期待できる。 ○外部資金の獲得に関する具体的な方策が記載されており優れている。 ●これらの実績を元に広く他の診療に繋げていことを期待したい。 ●SS-MIX 標準化ストレージを用いた J-CKD-DB は多施設研究であり、本校が主体的に国際レベルの研究を推進していく具体性に欠ける印象がある。 ●セキュリティ、個人情報保護等の観点から倫理的な配慮に関するセミナーなどの実施についての予算の活用の記載があることが望ましい。 ●医学生にとどまらず、大学院生への教育人材養成についての記載や医学生を研究支援者とした場合のモチベーションの活性化や維持についての記載も求めたい。 ●中国四国全体の臨床研究の活性化や国際レベルへの情報発信、影響を及ぼすことを期待したい。 ●Direct Data Capture の入力の手間に対する配慮が必要。 ●特許が monetize するまでには時間を要するため、RWD を基盤とした企業との共同研究を行い、外部資金を得るための取組も期待したい。	